

チームエッフェガーラ 市村真太郎 レースレポート

2010年6月27日

Festikapスプリントシリーズ第3戦

ヤマハSSオープンクラス(参加6台)

フェスティカサーキット

フレーム : birel RY31

エンジン : YAMAHA KT100SD

タイヤ : プリヂストン SL07

エンジニア: 加藤 真(レーシングサービス エッフェガーラ)

メカニック: 大内 芳治(チーム エッフェガーラ)

◆レース結果

TT 5位(38.237)

予選 3位(37.348)

決勝 3位(33.141)

◆シリーズランキング

4位(12.5ポイント)

第3戦終了時点



◆今大会にむけて目標、意気込み

またもや天気は怪しいコンディション。状況を冷静につかみそのときのベストで走れるようにします。今シーズンも折り返し、気合を入れていきます!!

◆レースレポート

公式練習: 路面はドライ、久々のスリックニュータイヤなので、車の動きをつかみそれを生かせるように集中していきます。走り初めてすぐにフロントの強さに戸惑いましたが、最後はある程度まとめて32.6秒。ただし、トップとは0.2秒離される結果。ニュータイヤを生かしきれないところに反省点を残す結果となりました。

TT: 路面は走行直前に雨が降り出し徐々にWETとなる状況。早い段階でのベストタイムを出す走りが求められました。しかし周りは3~4周目でベストタイムを出す中グリップする場所を見つけるのに時間がかかり、自分がベストタイムを出したのは5周目。結果は5位といまいち…。こちらも課題が残る結果となりました。

予選: 路面は完全にWET。TTでの結果を挽回する為、集中していきます。1周目、2コーナーイン側がグリップするのを確認できたため、スタートで、1~2コーナーでイン側からのパッシングを狙っていきます。これはもくろみどおりうまくいき4番手にて1周目をおえました。その後3位争いを6周ほど行い最終ラップ1コーナーで何とかパスして3位でゴールとなりました。ペース的にはこちらに分があったのですが、抜くのにこずりました。走行後、加藤監督からはこっぴどく怒られ、柔らかいレジャーシートでたたいていただきました。思いのほか勢いが良かったため若かりし頃、後頭部を強打したときのおいが…。でも、目が覚めました、「チャレンジしないで何がわかる」、決勝は心を入れ替えていこうと思います。

決勝: 路面はライン上が乾きだす状態。各車スリックタイヤを選択しレースに挑みます。スタートは予選失格者が出たため2番手スタート。スタートでのポジション取りをしっかり行い2番手を守るようにします。3番手を牽制しつつスタート、加速は決まりイン側にポジションを取ることに成功しました。中盤追い上げてきた選手に最終コーナーで並ばれ1コーナーでパスされ3番手に落ちますが、集中してなんとか3番手にてレースを終えました。1コーナーでパスされるとき外であまり粘らないように気をつけていたのですが、後ろにつくのが遅れ少しアウト側の濡れて汚れた路面を走ってしまった為、前方車両に離されてしまった上、後続車との差を詰められてしまいました。集中が切れてしまったらズルズルと順位を落とす危ないレースだったと思います。

ただし、不恰好で反省点の多いレースでしたが何とか結果が残せたのは良かったと思います。

◆レースを終えて

今回は抜き方抜かれ方に課題が残るレースでした。今後は、パッシングに対する気持ちを入れ替えチャレンジしていこうと思います。また、走行中のタイムロスも意識して練習していこうと思います。

気持ちよくなる・・・じゃない気が引き締まるお仕置きをしてくれた「加藤監督」、パッシングに対する意識をやさしく変えさせようとしてくれた「大内さん」応援に来てくれた方々、ありがとうございました。今度は気持ちよく見れるレースをお見せします!!

◎今回の足りないもの

①パッシングへの気持ち: チャレンジする気持ちがなく自分の低いレベルの範囲でしかパッシングに行けていない。

②ロスタイムへの気持ち: ロスタイムに対する意識の低さ。